

DNA鑑定による熊本県育成イチゴ「熊研い548」の品種判別技術

(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所により開発された7つのCAPSマーカーを利用し、品種識別を可能にする多型を得た。そのうち5つのマーカーで「熊研い548」と主要32品種との識別が可能である。

熊本県農業研究センター 農産園芸研究所 バイオ育種研究室(担当者:野田 孝博)

研究のねらい

近年、多様な需要に応えるため多くの作物で品種の育成が行われている。熊本県でも県オリジナル品種の育成により、農業生産の有利性を高める取り組みがなされている。しかし新しく育成された品種は育成者権を無視した不法な栽培や不正な店頭表示により販売されるなどの問題も生じつつある。このため、本年、熊本県で育成したイチゴの新品種「熊研い548」についてDNA鑑定による品種保証技術を確立することを目的とした。

研究の成果

1. 熊本県育成新品種イチゴ「熊研い548」について、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所により開発された7つのCAPSマーカー(APX-Mlu、CHI-Pvu、F3H-Noc、F3H-Hpa、F3H-Acc、F3H-Dde、CHI1-Hinf)を利用し、PCR-RFLP法(別概念図参考)で解析を行った結果、品種判別を可能にする多型が得られた。(図1)
2. 上記の7つのCAPSマーカーのうち5つのマーカーで「熊研い548」と主要32品種との識別が可能である。(図2)

普及上の留意点

1. イチゴ品種識別用CAPSマーカーは(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所により開発されたものでありその使用にあたっては協議を要する。

[具体的データ]

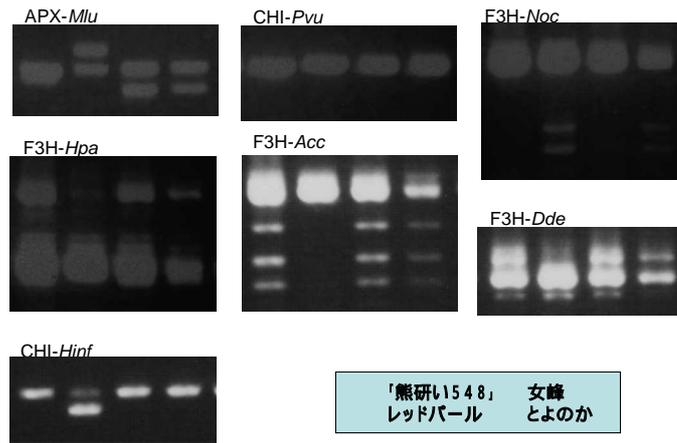


図1 7個のマーカーによる「熊研い548」の多型

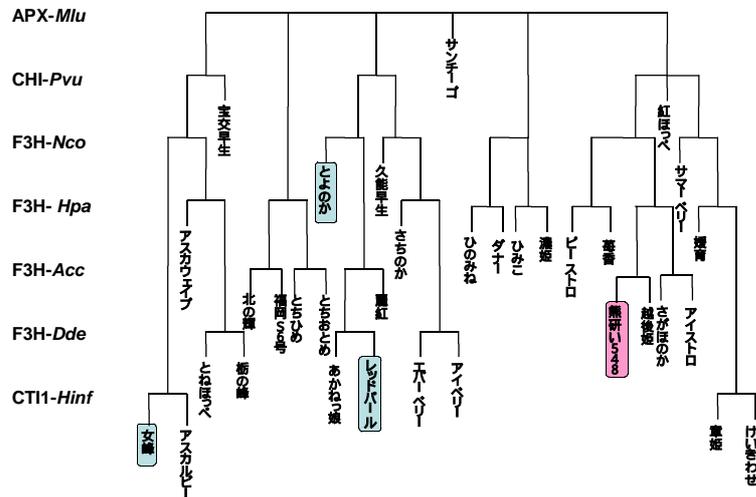


図2 7個のマーカーによる「熊研い548」の識別

